【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成20年8月7日(2008.8.7)

【公開番号】特開2007-3467(P2007-3467A)
【公開日】平成19年1月11日(2007.1.11)
【年通号数】公開・登録公報2007-001
【出願番号】特願2005-186667(P2005-186667)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｂ　3/10　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｂ　3/10　１０１
Ｇ０１Ｂ　3/10　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成20年6月25日(2008.6.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ケース内に、テープを周囲に巻回し且つそのテープを巻き込み方向に付勢する付勢手段が内装された回転ドラムを支持する巻尺において、ケースのテープ出入口に設けられた衝撃緩衝装置に、テープが摺動した際にその摺動抵抗を低減できる任意の摺動抵抗低減手段が設けられていることを特徴とする巻尺
【請求項２】
摺動抵抗低減手段がテープ先端に設けられたフックの係止部材を兼用していることを特徴とする請求項１の巻尺
【請求項３】
摺動抵抗低減手段が、回転部材、ベアリング部材、回転自在に設けられた球状部材のいずれか一つまたは任意の組み合わせによってなるものであることを特徴とする請求項１の巻尺
【請求項４】
回転部材の少なくともテープとの接触面がテープの短手方向とほぼ同じ形状になっていることを特徴とする請求項１の巻尺
【請求項５】
回転部材の端部に鍔が設けられており、且つテープが回転部材に接触した際にテープ短手方向の端部より突出することを特徴とする請求項１の巻尺
【請求項６】
第２の回転部材がテープの上方に設けられており、その第２の回転部材がテープ表面と接触でき且つ接触した際に回転できるようになっていることを特徴とする請求項１の巻尺
【請求項７】
第２の回転部材が請求項１に記載する衝撃緩衝装置に設けられていることを特徴とする請求項６の巻尺